

ケース学習（30代の蓄膿の男性）／前分析と分析

<前分析>

①印象＝素朴・実直・現実的仕事人

②健康度（0～10）＝7～8

③予後（良いレメディがある時／レメディがない時）は、どうなるか？

■良いレメディがあれば＝蓄膿・扁桃腺炎、ヘルニアは良くなり、疲れてもダウンしないで、仕事に邁進して行ける。その背景として精神的にも目的に向かって行動し、周りを引っ張って行くようになる。

■レメディがない時＝身体症状は続き、年齢とともに疲弊が激しくなり、仕事を遂行が出来なくなる時期が早めに訪れる。

④救急性（急性か慢性か～救急性があれば、そこから始める）＝慢性

⑤治癒を妨げているものは？＝ない。

⑥親和性（部位）＝鼻・喉・腸・全身

⑦マヤズム傾向（Psora Syphilis Cancer TB）＝Psora 的

⑧全体性（レメディはいくつ必要になるか？）＝一つ。

⑨バイタリティー＝やや強い。

<本分析>

全体を見渡すとこの方の特徴は・・・

身体面＝鼻・喉が弱く、肉体労働者なのに、疲労がたまると悪化しやすい。強さと弱さを合わせ持っているところが特徴的。

精神面＝総じて健全だが、目的に向かってわき目もふらず突き進むタイプ。責任感も強く、物事を遂行して行く能力も実行力もある。やや、堅くて真面目すぎて頑固なため周りとの協調性には欠ける。

自分と家族のためだけでなく、家業を引き継ぎ次に渡すという「家」への責任を果たすと同時に、生産者と消費者をつなぐ仕事を成し遂げることで、「社会」貢献してゆくことが、「自分の役割・役務」だと考えて、その実現のために行動している。

4大元素では、「土」の人。現実的で、行動力があり、地に足が着いている。

こういう全体像を持ったレメディを探す。

以上